

ジャン・ド・ディオが生まれたとき、彼の腹筋はまだ完全には発達していませんでした。両親は読み書きができず、医者 の指示を守れませんでした。結果的に、深刻な臍ヘルニアと なってしまいました。両親は『エコル・ド・ソリダリテ』を訪ね、アボメのCHD Zou/Collines 病院へ送られました。二ヵ月半かけて内臓を少しずつ内側へと移動させたのち、NPO “Help-Wir-helfen” が米国より輸入した人工膜を使って、手術によって腹部を閉じました。



『エコル・ド・ソリダリテ』を訪れた
ジャン・ド・ディオ



内臓は少しずつ内側に移動させます



母親への人工膜の受け渡し



手術後のジャン・ド・ディオ